令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業　19
主査名	岩尾詠一郎　専修大学教授	
研究テーマ	ラストマイルにおける配送サービスの変化と大都市中心部の物流対策※※	

研究の目的：

近年の、高齢化の進展や情報技術の発展などの社会の変化によって、消費者の購買行動が変化し、配送需要が増加している。この一方で、再配達の増加や貨物自動車のドライバー不足なども含め、従来と同様な配送サービスの実施が困難となっている。このため、大都市中心部の大規模建築物やマンションなどでは、増加する配送需要と配送回数の削減を両立させるために、ハードな施設整備やソフトな運用方法の開発が求められている。

そこで本研究では、過去に実施した配送サービスの実態を再整理するとともに、大都市中心部の大規模建築物やマンションに焦点を当てて、発荷主や配送事業者が検討すべき配送サービス水準（時間指定、当日配送、再配達無料など）の変更可能性、着荷主が検討すべき施設整備や受け取り方法の改善の可能性、都市交通計画から考えた対策などについて明らかにすることを目的とする。

研究の経過（4 月～3 月）：

本研究では、まず、第 1 回研究会（2024 年 6 月 6 日開催）では、本研究の概要、本研究で用いる用語の定義、および配送サービス水準の設定のメカニズムを明らかにした。次に、第 2 回研究会（2024 年 8 月 29 日開催）では、建物用途と物流の相互関係と配送サービスの変更が施設整備に与える影響、および大規模マンションの荷さばき活動の実態と課題を明らかにした。そして、第 3 回研究会(2024 年 10 月 30 日開催)では、大都市中心部における、端末物流対策の実態と課題を明らかにした。さらに第 4 回研究会（2025 年 1 月 23 日開催）では、大都市中心部の住宅地における、端末物流対策の実態と課題を明らかにした。

研究の成果（自己評価含む）：

本研究を通じて、建物用途と物流の相互関係と配送サービスの変更が施設整備に与える影響を示した。さらに、大都市中心部と大規模マンションの荷捌き活動の実態と課題、および端末物流対策の実態と課題を示すことができた。

今後の課題：

今後の課題としては、都市郊外部を対象として、配送サービス水準の実態と変更可能性を示し、配送サービスが変更された場合の配送と端末物流活動に与える影響と課題を明らかにする必要がある。